

協議会の諸活動や組織体制の見直し

【目次】

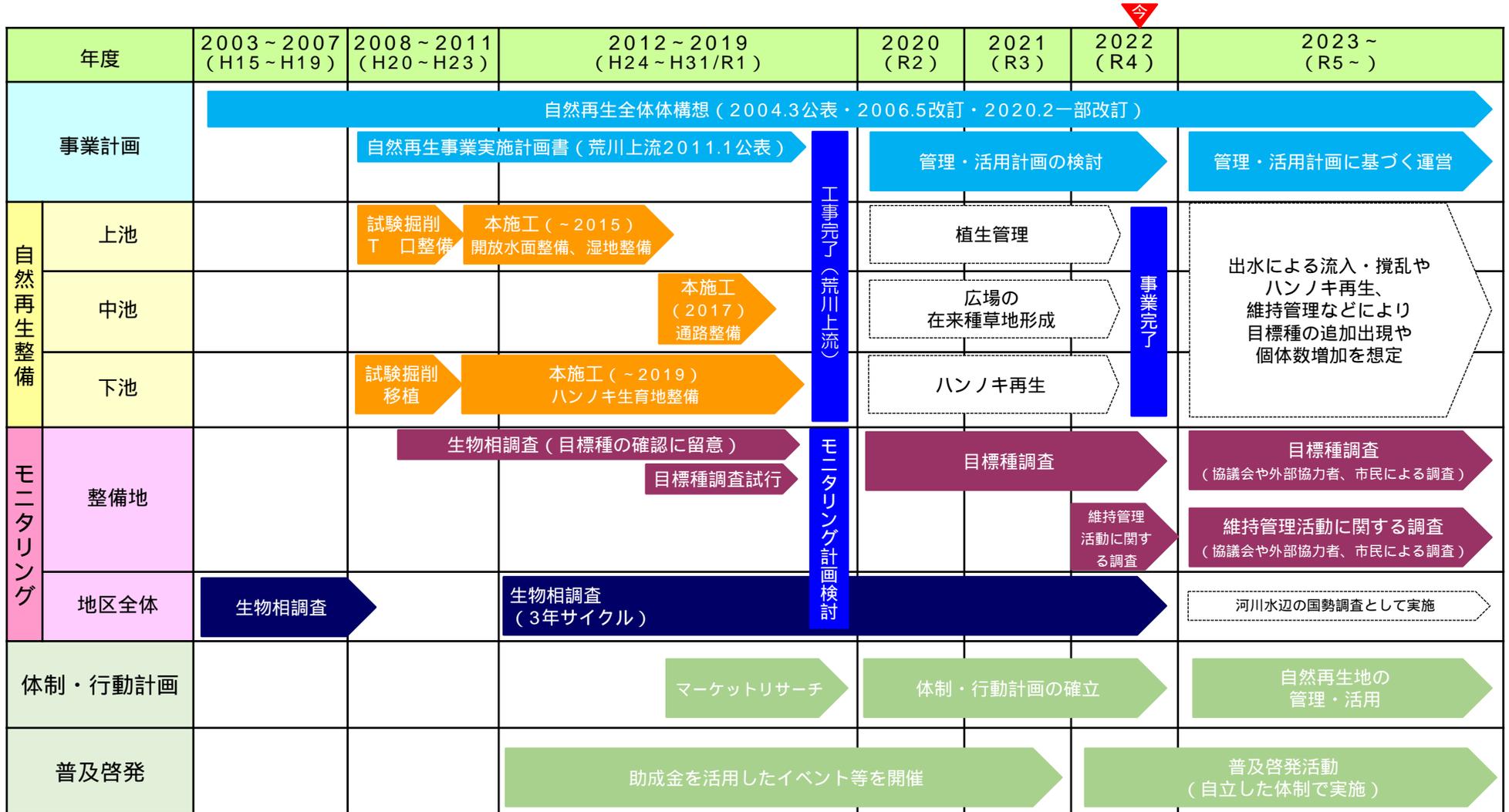
1. 荒川太郎右衛門地区自然再生事業ロードマップ・・・P2
2. 協議会の諸活動や協議会組織の課題・・・・・・・・・・P3
3. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制・・・P4
4. コミュニケーションツールの導入・・・・・・・・・・P7

【浅枝会長】

協議会の組織体制やコミュニケーションツールの導入についてご意見をお願いします。
詳細は事務局より説明をお願いします。

1. 荒川太郎右衛門地区自然再生事業ロードマップ

荒川太郎右衛門地区自然再生事業のロードマップ

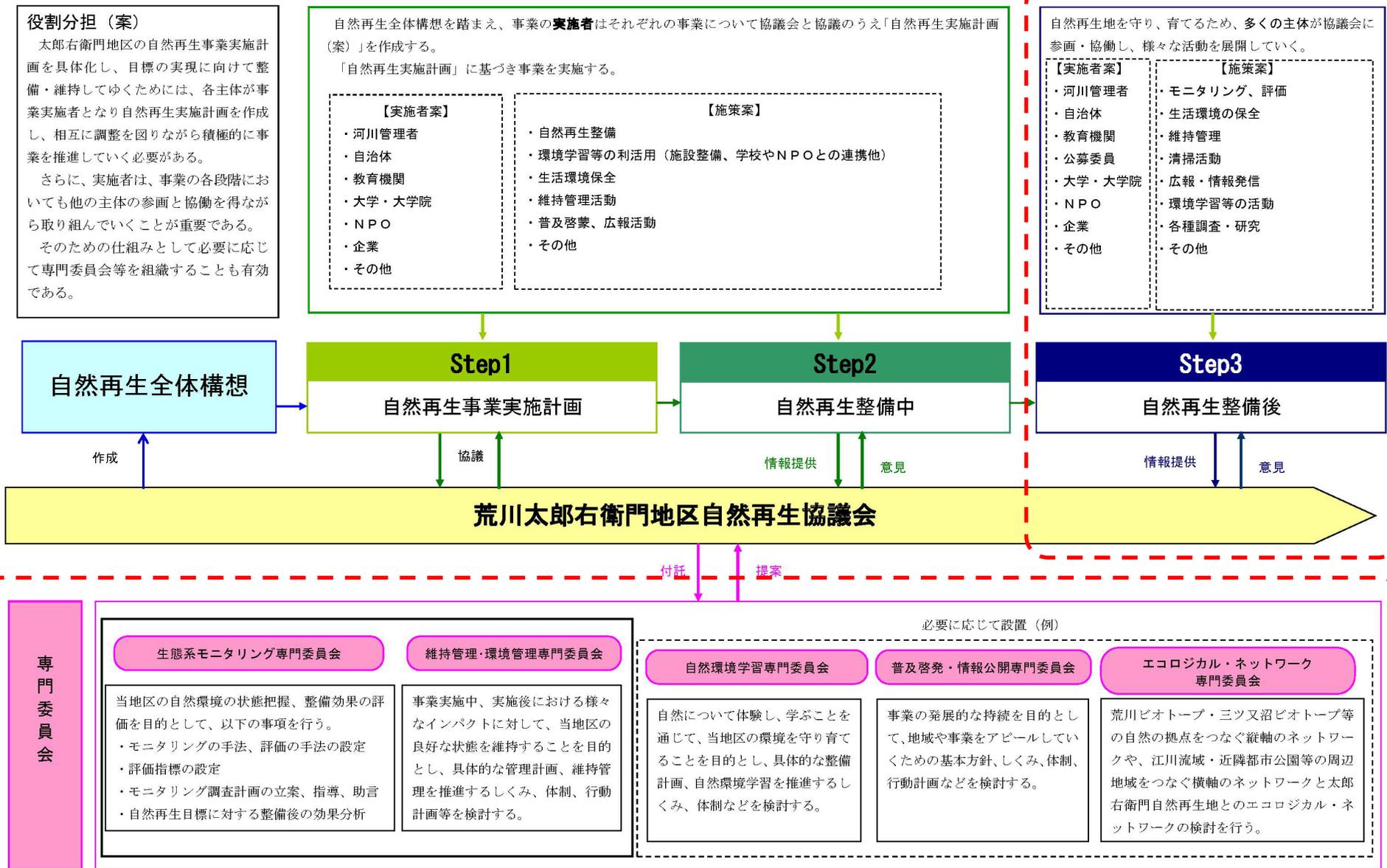


2. 協議会の諸活動や協議会組織の課題

分類	現状	課題	方針(案)
ブレイン	参加メンバーは年齢構成に偏り、固定化されている。 運営事務局に依存している。	<ul style="list-style-type: none"> 持続性に懸念がある / 多様な人材の参画が必要である 協議会運営の自立が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ρ 気軽に参加しやすい協議会へ変革 ρ 諸活動のパッケージ化やツール導入による効率化を図り、運営事務局による運営事務を軽減する
維持管理作業の人手	企業連携や一般ボランティア募集など、筋道が見えたところ。	<ul style="list-style-type: none"> 参加企業を飽きさせない / 新たな企業の確保 平日作業は参加者が限られる 一般ボランティア募集は、運営事務局の事務負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ρ 活動成果の見える化 ρ 企業との関係性の深化 ρ 土日や早朝の維持管理作業 ρ ボランティア活動の定例化 ITの活用
自然再生地モニタリング	業務によるモニタリング調査を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング成果の総括 R5年度以降のモニタリング方法 	<ul style="list-style-type: none"> ρ モニタリング項目・内容の見直し ρ 協議会委員による調査 ρ 市民/学校/企業との連携調査 ρ 業務による最低限の調査
庶務	運営事務局(荒上)および運営補助業務を受託したコンサルタントが協議会庶務を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 日程調整、出欠確認、メールしても反応なくて見ているかどうか判らないので電話確認など、連絡調整に割く時間が多い 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションツール導入 ρ 省力化した運営事務局のリソースを新たな活動に投入
組織体制	協議会、運営委員会、生態系モニタリング専門委員会、維持管理・環境管理専門委員会、イベント実行委員会を開催している。年10回程度。	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催回数が多い。 参加する協議会メンバーは概ね同じであり負担となっている。 会議は平日の昼間の開催である 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会組織のスリム化 ρ 会議開催方法の検討
資金	協議会活動の大部分を委託費に依存している。サイサン環境基金は、一部の活動を賄う程度。セブン財団との取組みは期待するところ大きい。	<ul style="list-style-type: none"> 支出の見直し <ul style="list-style-type: none"> － 会議会場確保に費用が発生 － イベント損失の穴埋めが発生 協議会の独自資金の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ρ 会議は無償会場やWEB会議 ρ 収支がとれる参加費設定 ρ 主催イベントで募金箱設置 ρ クラウドファンディング

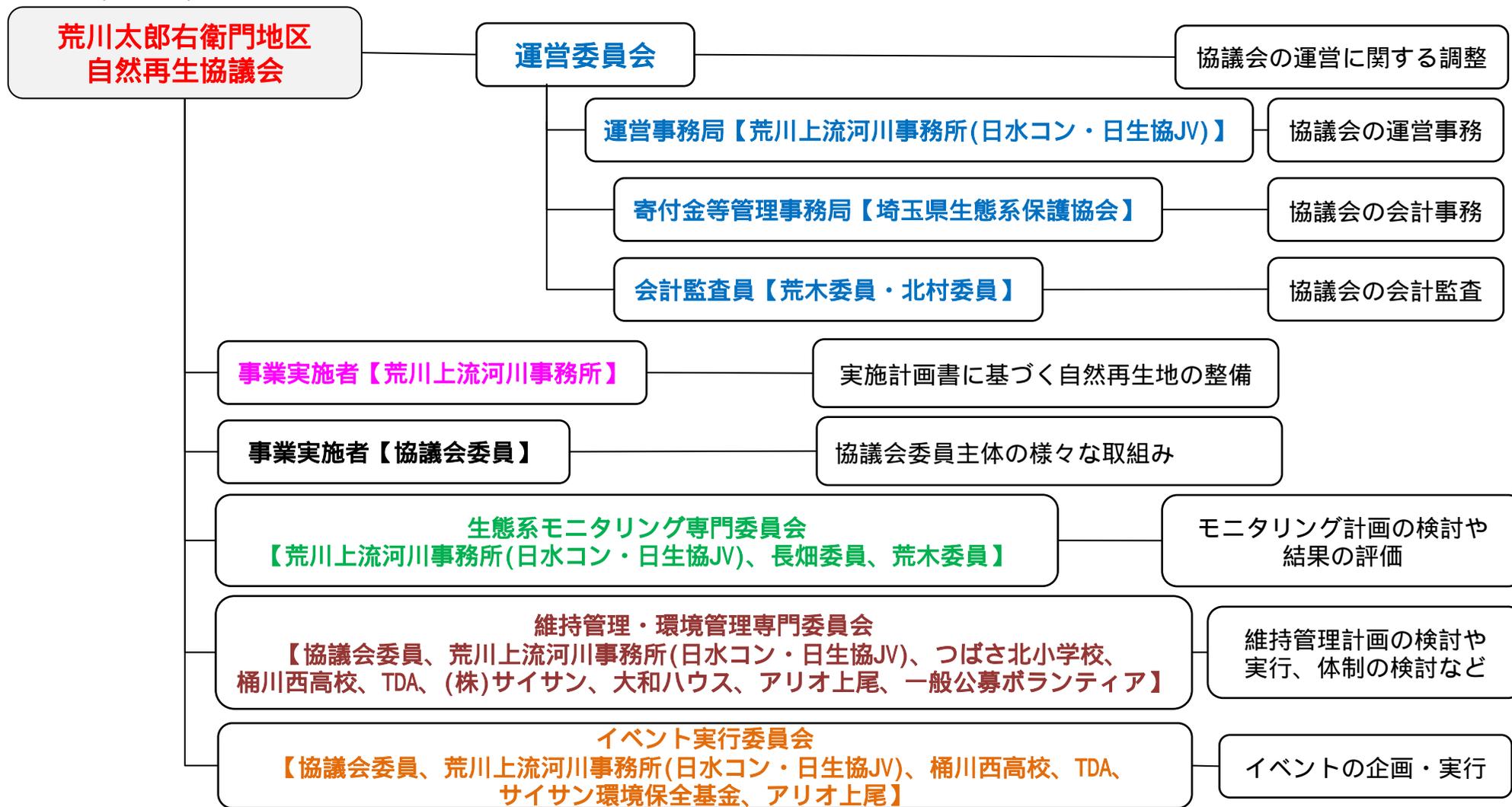
3 . 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制

全体構想に掲げられた将来イメージ(P61)



3 . 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制

R4年度(現在)



(第51回協議会(2022年3月1日)協議決定)

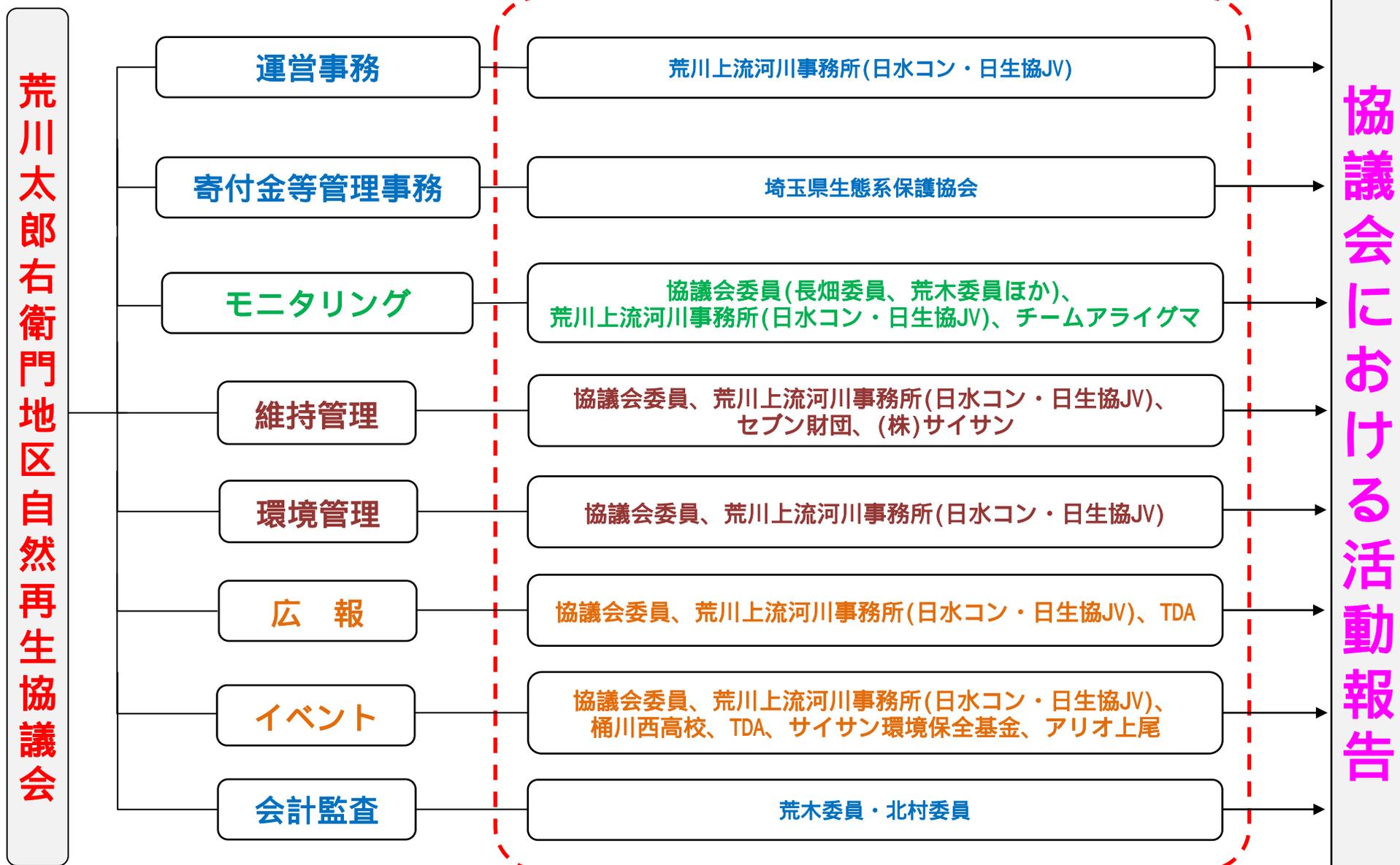
今後の協議会運営は身軽で効率的なものとしていくことが必要である。

- ・広報ワーキングはイベント実行委員会へ一体化
- ・大きな視点から検討が必要となる広報活動は、他の委員会とも係わることから運営委員会で取り扱う

3 . 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制

R5年度以降(素案イメージ)

<実施者>



協議会における活動報告

4 . コミュニケーションツールの導入

協議会運営の効率化にむけて、コミュニケーションツール(LINE WORKS)の導入を提案します。
コミュニケーションツールを導入することで、次のような活用効果を期待することができます。

コミュニケーションツールの活用イメージ

活用の場面	活用の効果
維持管理作業	<ul style="list-style-type: none">• 他の作業場所の状況を、テキストや写真で、共有できる
イベント	<ul style="list-style-type: none">• スタッフ間の連絡を共有できるので円滑なイベント進行ができる• 協議会メンバーが作成した写真・動画をアルバム機能で共有蓄積できる
有志活動	<ul style="list-style-type: none">• コミュニケーションツール上で有志グループを結成できる• 自主的な企画の提案、意見交換が行いやすい• 有志による維持管理作業やモニタリングを実施する際に、開催案内や出欠確認を行いやすい
巡視	<ul style="list-style-type: none">• 協議会委員が現場を巡視した際に、気づいたこと・見つけたことを協議会メンバーに写真やテキストで送信して共有できる
協議会庶務の効率化	<ul style="list-style-type: none">• メンバー全員が、他のメンバーの日程を確認することができる• 日程調整や出欠確認の連絡を効率的に行うことができる

4 . コミュニケーションツールの導入

コミュニケーションツールは、利用者が多いLINE と使用感が近い、「LINE WORKS」の導入を提案します。

- コミュニケーションツール導入後も、メールや紙媒体による連絡は従来どおり、継続します。
- 無償でスタートできるプランがあります。スモールスタートとして、まず、始めてみる事ができます。
- 使いながら、利用ルールを検討します。

国内利用者数 9,200万人

LINE WORKSの製品プラン

プランについてよくあるご質問への回答は[こちら](#)

→ 約20%割安!

月額契約 年額契約

まずはこちらから

FREE フリー

はじめてビジネスチャットを利用する
会社が無料で100人まで利用できるプラン

¥0
(無料)

今すぐはじめる

- 👤 ユーザー数100人まで
- 💾 ストレージ5GB

基本機能

- 🗣️ 音声/ビデオ通話/画面共有 (4人まで、最大60分)
- 📅 仕事に必要な基本機能 (トーク、掲示板、カレンダー、タスク、アンケート、アドレス帳)
- 🔒 管理者機能 (制限あり)

STANDARD スタンダード

仕事に必要な充実した機能が備わった、
ビジネスコミュニケーションのスタンダード

¥450
1ユーザー/月 (年額契約)

導入相談窓口

- 👤 ユーザー数無制限
- 💾 ストレージ1TB

フリープランの全機能と以下を利用可能

- 🗣️ 音声/ビデオ通話/画面共有(200人まで)
- 🔒 管理者機能
- 🛡️ カスタマーサポート/SLA保証

ADVANCED アドバンスト

メールとDriveを兼ね備え、社内外の
連携をより強くするコラボレーションプラン

¥800
1ユーザー/月 (年額契約)

導入相談窓口

- 👤 ユーザー数無制限
- 💾 ストレージ100TB

スタンダードプランの全機能と以下を利用可能

- 📁 Drive
- ✉️ メール

【参考】東京デザイン専門学校の学生意見

HPにほしい情報がない

- ボランティア募集の情報がない
- リーフレットに活用できる写真がほしい
(いろいろな構図の写真)
- マップは全域マップだけでなく、拡大マップがほしい
- ドローン撮影は俯瞰し過ぎている

HPは情報量が多すぎる

- リーフレット作成時に情報が多くて、何をみたらいいのかわからなかった
- コンパクトにまとめた情報がほしい

具体的な活動内容がわからない

- どこで何をしているのかわからない
- サクラソウ再生地がどこにあるかわからない
- 小学校や企業との連携活動の場所がわからない

若者向けの発信ができていない

- Twitter や Instagram をよく使っている
- Facebook は使わない
- 動画がわかりやすい

4 . コミュニケーションツールの導入

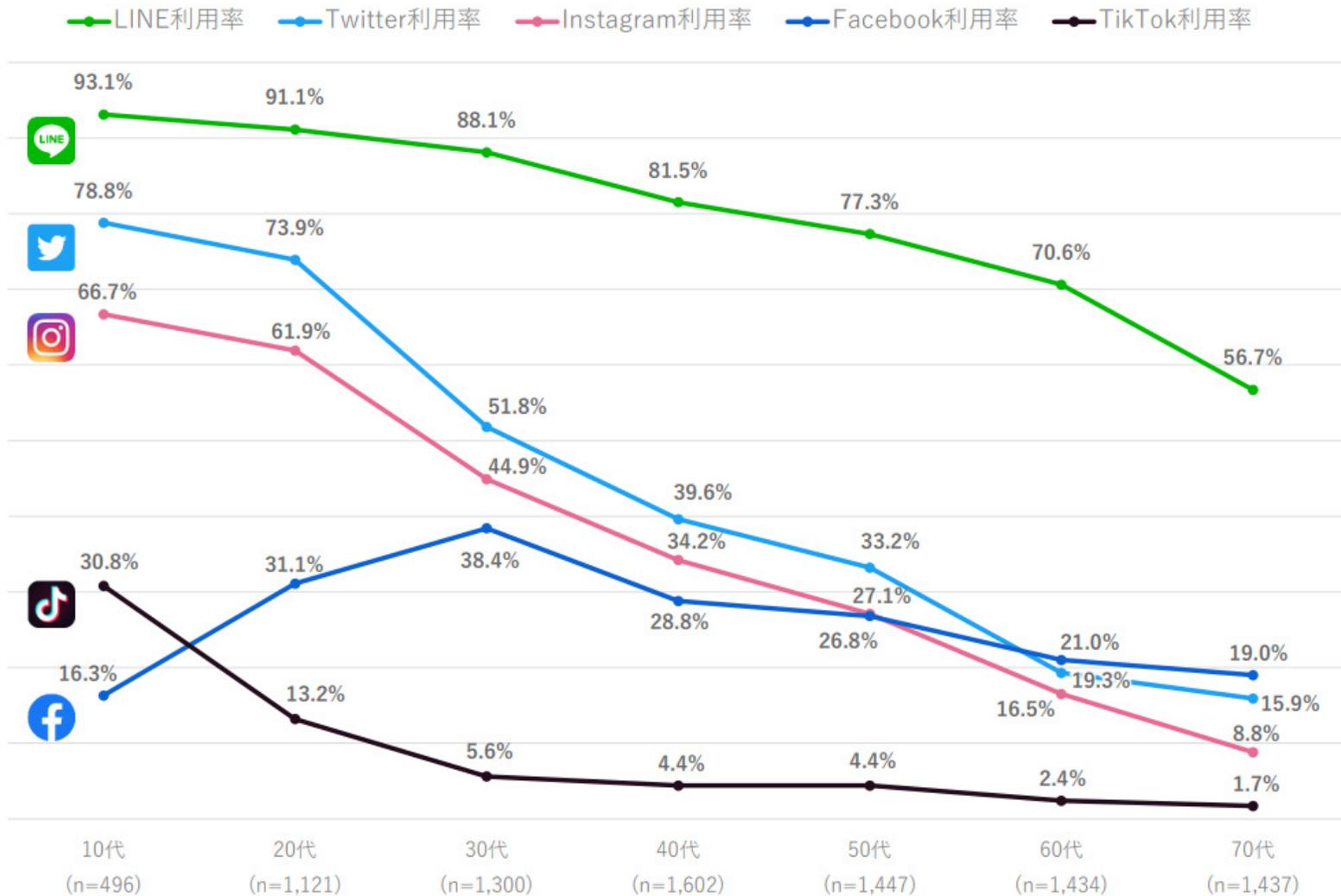
【参考】主要SNSの月間アクティブユーザー数

SNS名称	日本	世界
LINE	<u>9,200万</u>	<u>1億9,300万</u>
YouTube	<u>6,900万</u>	<u>20億</u>
note	<u>6,300万(※1)</u>	—
Twitter	<u>4,500万</u>	<u>3億3,300万</u>
Instagram	<u>3,300万</u>	<u>10億</u>
Facebook	<u>2,600万</u>	<u>29億3,000万</u>
TikTok	<u>1,700万</u>	<u>10億</u>
Pinterest	<u>870万</u>	<u>4億3,300万</u>
LinkedIn	<u>300万(※2)</u>	<u>8億5,000万(※2)</u>
WhatsApp	—	<u>20億</u>
WeChat	—	<u>12億9,900万(※3)</u>
Snapchat	—	<u>3億4,700万(※4)</u>
カカオトーク	—	<u>5,336万人</u>

※1：アクティブブラウザ数
※2：登録者
※3：中国国内のみ、Weixin含む
※4：デイリーアクティブユーザー数

4 . コミュニケーションツールの導入

[参考] ソーシャルメディアの利用率(年代別・複数回答)



4 . コミュニケーションツールの導入

導入事例 金沢市立大徳小学校PTA

金沢市立大徳小学校 育友会

業種

教育・塾 | NPO・団体等

目的・効果

従業員間の連絡

| コンプライアンス・セキュリティ

スマートフォン活用

| 業務自動化・Bot

ノウハウ共有 | 導入のしやすさ

主な活用機能



トーク



グループ



掲示板



アンケート

お話を伺った方

大徳小学校育友会 会長

PTA活動にLINE WORKS。学校に出向けない保護者とも情報共有できるようになり、組織が活性化しました。

石川県の金沢市立大徳小学校育友会は、組織内の委員会などに深くかかわる保護者間の連絡ツールとしてLINE WORKSのフリープランを活用。活動に関する多様な情報をスピーディに伝達できる環境を整備しました。会合に欠席しても会議内容のレジュメを共有したり、トークで意見を交換したりできるようにすることで、誰もが主体的に組織運営に参加していることを実感できるようになったといいます。

本事例のポイント

- ICTスキルが低くても容易に使いこなせて会話が活性化
- 会合に不参加のメンバーも組織の一員であるという意識を醸成
- HPに設置したフォームの送信内容をBotで通知させ見落とし防止
- 育友会メンバーの入れ換えやICT管理者の引継ぎにも有効に活用

以前はどのような課題を抱えていましたか。

瀬戸さん：

かつての育友会活動は専業主婦である母親が主体となり、学校に集まって行われるものでした。しかし近年は共働き世帯が増加したこともあり、保護者みんなで足並みを揃えて活動することは難しくなっており、保護者どうしが連携するには情報共有のツールが必要不可欠と感じました。数年前までは主にメーリングリストで情報を共有していましたが、メールはいつ読んでもらえるかわからず、確実な連絡手段として機能しないのが難点でした。

相羽さん：

そこで無料のサイボウズLiveを導入しましたが、保護者のITスキルに差があるため、多様な機能を十分に活用できない人も少なくありませんでした。また、一方的な情報共有がメインとなり、コミュニケーションをとる際には手軽な個人LINEが使われることが多く、重要な話が見えないところで進められるといった課題もありました。その後、サイボウズLiveの提供が終了されることになり、新たなツールを導入する必要に迫られました。

課題解決のためにLINE WORKSを選定された理由と、現在のご利用状況をお聞かせください。

瀬戸さん：

ソフトウェアのエンジニアのお仕事をされていてICTツールに詳しい相羽さんからLINE WORKSの利用を提案いただき、LINEと操作性が似ていることから保護者の皆さんが容易に使いこなせることに期待してフリープランの導入を決めました。育友会に所属する全保護者にLINE WORKSのアカウントを発行して管理するのは大変ですし、全員が頻繁に連絡を取り合うわけでもないので、各種委員会やプロジェクトの中心的な保護者のみにLINE WORKSアカウントを付与し、2019年度に運用を開始しました。2021年度は37名がLINE WORKSを利用しています。

相羽さん：

LINE WORKSを利用する保護者とそれ以外の保護者間のやり取りは、LINEのオープンチャットで行っています。

4 . コミュニケーションツールの導入

導入事例 金沢市立大徳小学校PTA

LINE WORKSの具体的な活用シーンと導入効果をお聞かせください。

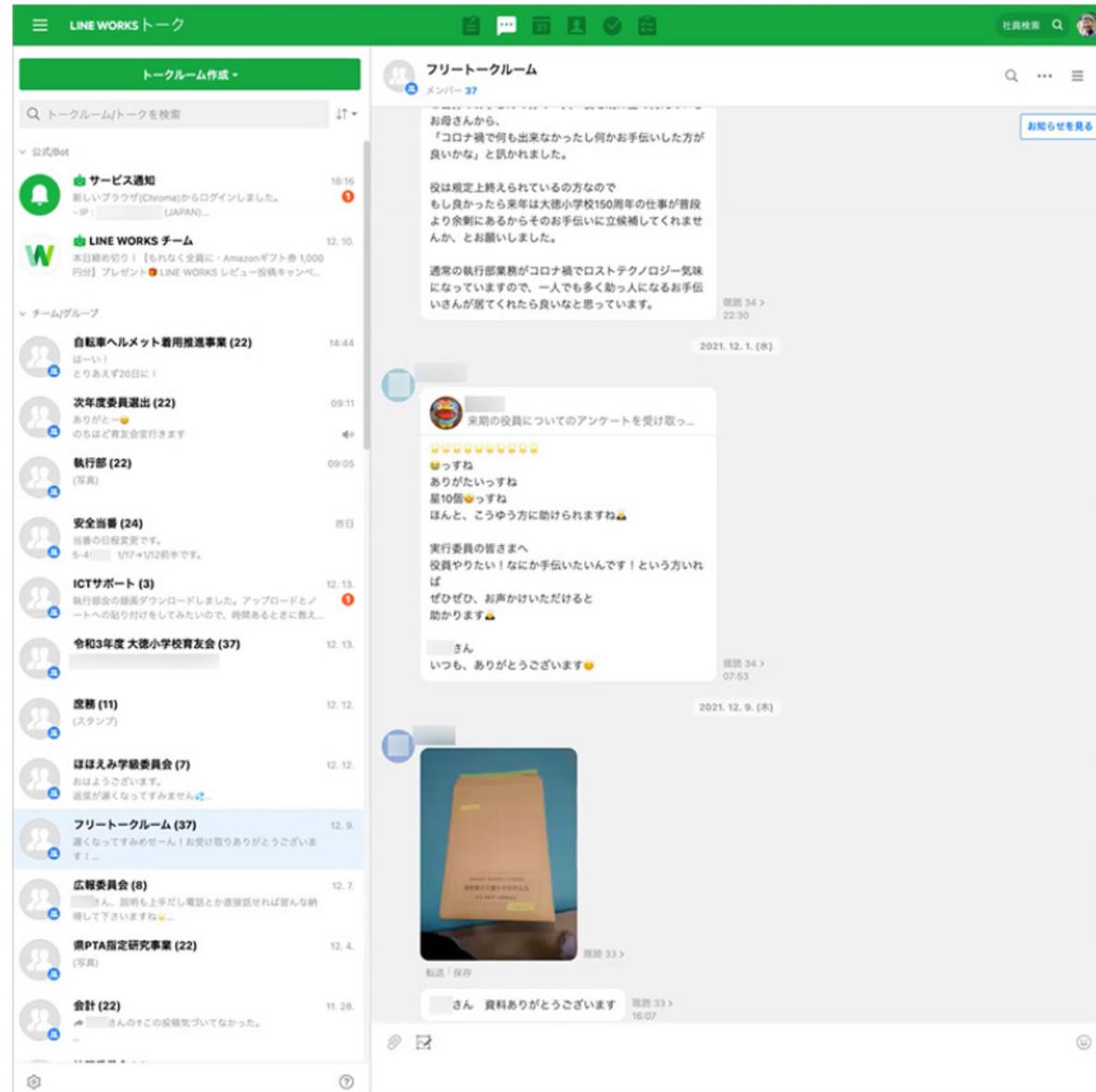
- ・ICTに疎い保護者にも使いやすくスムーズにツールが定着
- ・委員会やプロジェクトごとのグループトークで情報を確実に共有
- ・会合に出席できない保護者も意見を投稿することで組織運営に参加

瀬戸さん：

LINE WORKSでは、全員が所属するグループや、どんな話題でも自由に投稿できるグループのほか、委員会やプロジェクトごとにグループを設けて情報を共有しています。やはりLINE WORKSはとっつきやすいようで、過去に利用したどのコミュニケーションツールよりもスムーズに定着しました。

相羽さん：

これまで、学校で開催される会合に参加できない多忙な人は、自分が不在ところで物事が決まることに疎外感を抱きがちでした。しかしLINE WORKS導入後は、話し合いで決まったことがすぐに共有され、そこから意見を交換し合うこともできるので、多くの人が「組織の運営に携わっている」という実感を持てるようになったと思います。



活動内容によってグループを細分化。誰でも自由に投稿できる「フリートークルーム」も設けて活発な意思疎通を図っている

4 . コミュニケーションツールの導入

導入事例 勝田台小学校PTA

LINE WORKS選定の理由

「一言で言えば、みんなが使っているLINEにインターフェイスが似ていて、かつLINEとは別のアカウントで情報共有ができることです」(村上さん)

村上さんは、非営利団体向けの低質なアカウントを用意している他のサービスも検討しましたが、PC操作が前提で画面が使い慣れないという点で利用を見送ったといいます。その点、直感的に操作できるLINE WORKSであれば、フリープランを利用することでコスト面でも導入のハードルが低いと感じたそうです。

コロナ禍で加速したLINE WORKSの利用

「PTA版の情シス」も設置

LINE WORKS導入を本格化したのは2019年。そのため、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた2020年度からは、LINE WORKSの利用をスタートすることができました。GoogleフォームでPTAメンバーのメールアドレスを収集して、LINE WORKSアカウントを登録。

「4月のPTA総会のときにはアカウントの登録は終わっていて、総会の文書もPDFで提供して、LINE WORKSのアンケート機能を使って承認をとるところまでできました」(村上さん)

勝田台小学校PTA

業種

教育・塾 | NPO・団体等

目的・効果

従業員間の連絡 | スマートフォン活用

業務の見える化 | 導入のしやすさ

主な活用機能



お話を伺った方

PTA会長

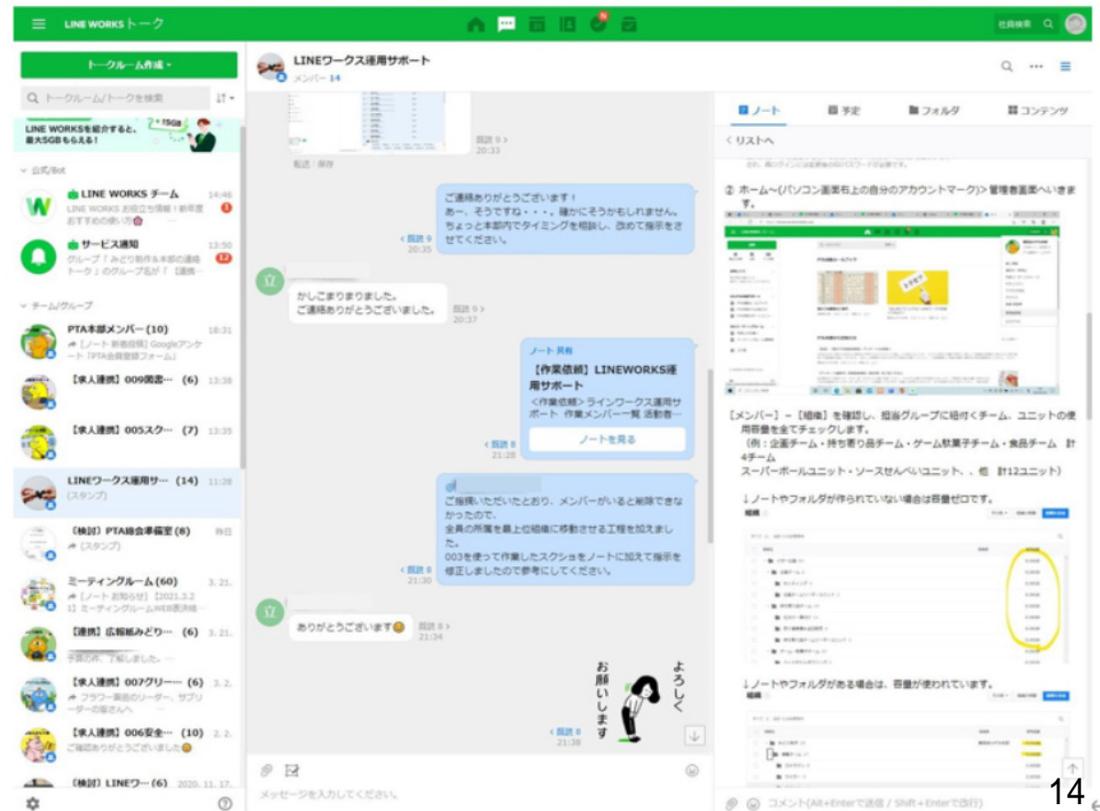
齋藤 雄大さん

勝田台小学校PTAがLINE WORKSで成し遂げた改革。昭和だったPTAに新しい風を吹き込みました。

千葉県八千代市にある勝田台小学校のPTAに新しい風が吹き込んでいます。ビジネスチャット「LINE WORKS」の導入をきっかけに、学校に来ること前提だった情報共有が大きく変わった。勝田台小学校 PTA会長の齋藤雄大さんとLINE WORKS導入に携わった村上篤寛さんに話を伺いました。

本事例のポイント

- 一人ひとりの賛同を得ていくことがLINE WORKS導入のコツ
- PTA版情シスの設置で運用のサポート体制を構築
- 学校に行けず参加できなかった保護者を掘り起こしPTA活動を活性化

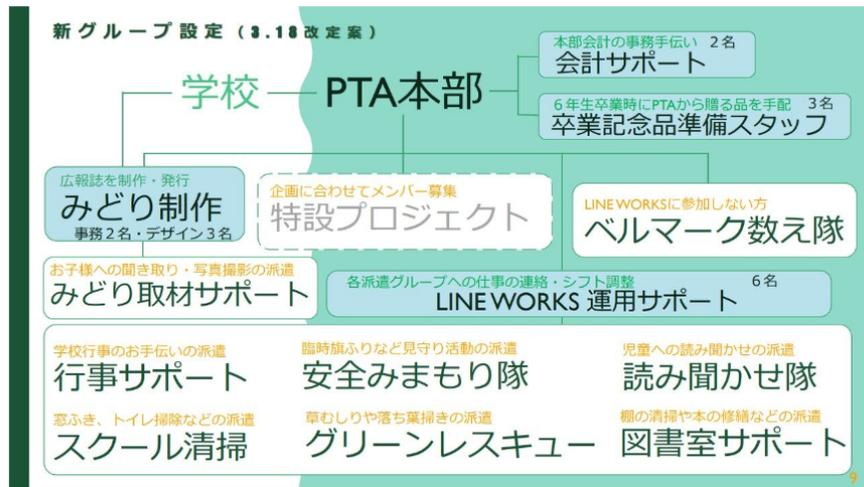


4 . コミュニケーションツールの導入

導入事例 勝田台小学校PTA

PTAにおける具体的なLINE WORKS活用とその効果

勝田台小学校のPTAは大きく本部によるPTA全体の運営、会計、広報誌の作成といった主要業務のグループのほか、行事や図書室のサポート、学校の清掃や草むしり、児童の見守り、卒業記念品準備などのグループで構成されています。これらのグループごとにLINE WORKSのトークグループが作られ、資料の共有もLINE WORKS上で行なわれています。利用に際してはマニュアルも用意され、情シスにあたるLINE WORKS運用サポートのメンバーが使い方や活用の相談に乗っているといえます。



勝田台小のPTAの組織

リテラシや利用環境の問題はあったそうです。LINE WORKSを使いたくないという人はもちろん、学校でのIT導入は、とかくリテラシの低い人に全体をあわせる傾向があります。約1万5500人の小学生がいる八千代市でアンケートをとったところ、そのうち1割は自宅にネット環境がなく、紙による伝達は続いているといえます。そのため勝田台小学校のPTAはLINE WORKSの利用を前提としつつも、メール、紙という3つの伝達手段を用意しています。

PTA版のクラウドファンディング導入

クラスごとの役員決りを廃止

勝田台小学校PTAの改革はいまも続いています。たとえば、PTA活動費とは別に設立したPTAとして学校に寄付する支援品などを購入するための出資を会員から募る「勝小こどもみらい基金」は、いわばPTA版のクラウドファンディングで、リアル活動の代わりに、出資することでPTAの活動としてみなすようにしています。

「大前提として、ヒマな時間がある人なんて居ない、という話を本部メンバーでしていました。フルタイムやパートタイムにかかわらず働いていたり、家事や介護や育児など個人ごとに事情はさまざまですが、各家庭内の負担も大きい中、PTA活動に協力したい気持ちはあるけど、時間を捻出できないという声に応えました。これも試行錯誤の1つですので、もちろんさまざまな意見はありましたが、こういう仕組みはありがたいといういろいろな方から言っていただけました」(村上さん)

2020年度に行なった議論を経て、2021年度からはクラス単位での役員決りを廃止し、仕事にあわせてオンデマンドに人材を調達することにしたいといえます。手が挙らなかったらどうするのだろうかかと心配になる声もありましたが、草むしりや図書室サポートなどの依頼がLINE WORKS運用サポートを経由して、各グループに行くと、それぞれのグループメンバーから自主的に手が挙り、きちんと結果報告も挙ってくるといえます。

「草むしりなんて期間は1週間くらいしかないし、正直どれくらいの方が参加していただけるのかな?とっていたのですが、毎日誰かがきちんと作業して、報告をくれるんです」(村上さん)